資料②

これまでの協議事項・課題について

協議対象者	協議事項	課題
西脇小学校教員との協議	**市担当者・教員・児童等、各対象者に対するﾏﾆｭｱﾙの作成を行う**	
	保存管理計画の作成に際し、意見をとりまとめておく必要がある	ハード面：部材の修繕・取替やエアコンの取替などが想定される
		ソフト面：利活用の仕方などを検討中
	子どもの閉じ込めや不審者の侵入などの心配がある	現在のところ施錠管理については問題ない 文化財への対応としていろいろな場面を想定し、マニュアルを準備しておきたい
	鍵がかかっているのに夜中にセンサーが反応し、警備会社に連絡してしまう事があった	原因について機械警備会社と協議する
	児童がぶつかった際、出入口の扉が外れることがある	建具調査の上、再度調整を検討中 教室～廊下間の建具ガラスは竣工当時のものであり、 替えが利かないので大切にしていきたい
	建具の桟やレールが外れることがある	
	建具のガラスが割れた際、修理対応したことがある	
	教室後方出入口のねじ込み錠が合いづらく、施錠が難しい	
	図書室の扉が勝手に開くことがある	
	掃除具入れの扉が固く、児童の力で開かない	
	上階の授業終了時、机を動かす音などが響く	木造のため防ぐのが難しいので、休み時間に動かすなどの配慮をして対応いただきたい
	パソコンが通信制限で動かなくなる事がある	アクセスポイントのパワー不足かもしれない
	掃除について	コルクタイルはから拭きでよい フローリングも塗料がかかっているのでから拭きでよい
		中庭の草引きは毎日行っており、夏場は運動場の草引きも行っている
	タブレット充電ケースは現在廊下に置いている	廊下は有効幅が小さくなり好ましくないので、収納場所を検討中
		ソフトの更新が必要となることがあるので、Wi-Fiの届くところがよい
	木造校舎に現在計18教室(うちチャレンジ4室、算数教室2室)入っている	チャレンジ教室はRC校舎に配置していたが、木造校舎の方が普通教室の生徒との交流があってよい
	置き傘の置き場所について	廊下中央の下駄箱(スロープ)周辺など検討中
		児童によっては下駄箱のところに置き傘も置いている
		第2校舎は来客があり、来客用の傘立てが必要
	コモンスペースの利用について	ベンチ等の利用を想定していた その他展示での利用などを想定している
	渡り廊下に掲示するもの、教室に掲示するものを使い分けするとよいのではないか	教室から遠い階段よりも近いところに掲示したい 実際には近いところで掲示している
	掲示パネルのサイズが掲示物と合わない	具体的なサイズを提示いただき、検討する
	画用紙の大きさとなっているが、名前や賞の札も貼るため、並べづらい	
	習字の掲示には合う	
	その他の課題・不具合について	調査前に問題のある箇所にしるし・メモをしていただく

協議対象者	協議事項	課題
西脇市商工観光課との協議	運動場貸出での使われ方について	建造物への影響・危険性を考慮し、文化財としてルールの見直しを検討中 PTA・おやじの会等の想定されるイベントも活用計画にいれておくほうがよい
	PTAイベント等での活用のされ方について	
	おやじの会（西小OB）のイベントでの活用のされ方について	
	学校利用以外の利用計画（イベントや西脇市のアピールとしての利用予定）はあるか	過去に要望があったバスツアーや見学会での利用を想定している。外観だけでもよいが、可能であれば内観も見学できるとなおよい
		現在は学校職員の誰かが対応しているが負担が大きいので、NPO北播磨田園博物館・ボランティアガイドなどの同行を条件とすることを検討中
		施錠、開錠の責任が伴うので、マニュアルの作成を検討中
		頻度(毎週もしくは年に何回程度)を決めておくと管理・報告しやすい
	記念室の管理のシステムが必要	PTAを含め、管理体制を検討中
	映画の撮影は課題が多い 西脇市の条例により営利目的の映画撮影は不可	立会のルールやマニュアルづくり・管理体制を検討中
北播磨特別支援学校での校長および教員との協議・聞き取り	児童数は130名程度、6台の送迎バスが運行している	
	医療ケアが必要な児童は計6名、最重度の児童が2名	保護者により送迎を行う 胃ろうの児童は看護師が付き添う
	小中学生は定員8名、高校生は6名	一般の学校よりも1クラスの定員が少なく、教室が小さい
	一般の学校と特別支援学校の選択について	医師の診断と、専門家・教育委員会・北播磨特別支援学校のメンバーによる就学指導委員会により判断
		近年は保護者の意向も尊重されている
		希望者は基本的に受け入れている 児童数が多いが、その都度対応を協議している
	西脇小学校の改修工事もインクルーシブ教育の概念を念頭に置いている	現状はトイレ・通路のバリアフリー程度の配慮に留まっている
	北播磨特別支援学校は知的障害がメイン、四肢、聴覚、視覚は専門外	混在させることでお互いが刺激を受けることを期待しており、実際にその効果はある
	基本的に特別支援学校免許をもった教職員が対応している、職員は計71名	一人一人違った障害を持っているため、それぞれに合った対応が必要
	サービス業の需要が大きいため、接客・掃除・パソコンの技能検定を実施している	
防災関係協議	防火設備については、重要文化財として一段階上の仕様が求められる	西脇消防署と協議予定
		非常用電源など、停電時の初期消火への対応が求められるかもしれない
その他	手摺は竣工時とその後の改修による意匠が異なる	復元を含めて検討中
	四隅の構造材については補修を修繕計画に盛り込むことを検討中	
	文化庁の指針に沿ったものにするためには、これまでの調査と質が大きく異なる	
	市としてどう使いたいかを決める必要がある	使い方の幅を広げ過ぎると手間がかかるが、 あとで使い方を決めると、その都度申請が必要となり実行しづらい
		利用方法を計画に盛り込むことで、許可申請が不要となる
		計画の内容から、文化庁に必要な費用の目途をつけていただく
以下余白		